

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 「エネルギーの情報化」に基づく地域ナノグリッドの構築および実証
2. 研究代表者名及び主たる研究参加者名（研究機関名・職名は研究参加機関終了時点）：
研究代表者
加藤 丈和（京都大学大学院 情報学研究科 特定准教授）
主たる共同研究者
松山 隆司（京都大学大学院 情報学研究科 教授）
久門 尚史（京都大学大学院 工学研究科 准教授）

3. 事後評価結果

○評点

B 成果がやや不足している

○総合評価コメント

本研究では、需要家側の自律的な電力管理システムを需要家間で協調連携することにより、需要家間の電力融通を実現し地域コミュニティの需給バランス制御、平準化を行うことを目的とした。需要家モデルを構築し需要家間連携によるコミュニティ最適化などの新しいコンセプトを検討し、需要家向けエネルギーマネジメントシステムとして成果を挙げた。家電と電力マネージャの間の事前調停に基づく電力使用により節電率を保証することのできる需要家向け電力管理システムやユーザの家電使用状況に応じた動的優先度によって生活状況にあわせて電力削減機器を選択することができたことは評価される。ただ、本研究が当初の計画にある地域ナノグリッドの実証にまで到達できなかった点は残念である。今後、現状の電力システムの情報系コントロール手段として実用化が期待されるので、更に研究を進め大きな成果を挙げて欲しい。